

消えゆく新潟市の海浜植物

笹原 治

新潟市の海岸線は33kmにも及び、それに沿って砂丘が続いています。昔は、海岸の砂浜にはたくさんの海浜植物が見られました。初夏には、うす紅色のハマヒルガオの花が一面に咲き、これと美しさを競うかのようにハマエンドウが紫色の花をいっぱい咲かせます。そして、ハマニガナの黄色い花や、スナビキソウの白い花がアクセントをつけます。コウボウムギは太い筆のような穂をつけ、チガヤは白い綿毛をつけた穂を風になびかせます。夏になれば、ウンランに黄色いきれいな花が咲き、ハマボウフウは砂の中から白い花をのぞかせます。ハマゴウは紫色の花を砂の上の小枝につけます。秋にはアキグミに赤い小さな実がたくさんつきます。白い葉をしたシロヨモギや繊細な葉をしたカワラヨモギに茎がたち小さな花を咲かせます。草やぶのなかではマツムシやスズムシ、カンタンなどの虫が美しい音色で鳴きます。しかし、今では、海岸浸食や地盤沈下のため、海岸はコンクリートやテトラポットで固められてしまいました。海浜公園にはアキグミやハマナスがたくさん植込まれ、かつての砂浜の姿を思い起こさせます。

「昔は、」などを書いてしまいましたが、実は、今でも砂丘に海浜植物はたくさん残っています。しかし、「今では、」あまりにも身近すぎるためかこのすばらしい自然は忘れさ

られ無視されているかのようです。特に、新潟市西部（小針浜・五十嵐浜など）ではこの数年の間に海浜植物群落が著しく破壊されてしまいました。砂浜の上を道路が通り海浜植物を押しつぶしてしまいました。マリッジのための施設は海浜植物をじゃま物扱いにしています（たしかにウインドサーフィンにハマヒルガオやハマエンドウは似合わない気がするが）。親水護岸がつくられ、人が海に親しむことができるようになったかわりに海浜植物は消え去りました。四輪駆動車は砂浜を走り回り海浜植物を踏みにじっています。ゴミによって埋立てられてしまったところもあります。

海浜公園ではハマグミを植え昔の砂浜の風景を復活させようとしているのに、もう一方では砂浜の自然を壊しています。「夕日の美しい海岸」として整備をしているようですが、夕日と海浜植物は共存できないのでしょうか。緑が少ないと言われている新潟市のなかでは砂浜の海浜植物はもっともすぐれた自然です。後で「昔はよかった」と嘆くぐらいなら、今ある自然を大切にすべきでしょう。この砂浜の天然のお花畑は市民にとっての財産なのですから。



四輪駆動車に踏みあらされた砂浜。ゴミも多い。（新潟市五十嵐浜）